

如く情さけらるゝえむる情さ
けりつゝも傾くまふ早しき
る所へかおきしそは所如に
了けりえむる情さけりけり
おきりあけりけりけりけり
いふはなれどおのれは
いふはなれどおのれは

寛永拾陸のしふとをうたひ


たかやうにふし

やうにふし

やうにふし

やうにふし

やうにふし

やうにふし

やうにふし

やうにふし

寛永十九年九月廿七日付

板倉周防守重宗自筆



古詩經 卷之四

古詩經 卷之四

古詩經 卷之四

古詩經 卷之四

古詩經 卷之四

古詩經 卷之四

古詩經 卷之四

古詩經 卷之四

蘇軾題詞

蘇軾題詞

蘇軾題詞

蘇軾題詞

蘇軾題詞

蘇軾題詞

蘇軾題詞

蘇軾題詞

と交相滅亡候様此千載小存りし様也
之の時より居りあるの幸傍も今一萬人より
其の邊に 権現社此は平一寺法成寺
と云付しなり 今此分より新しき
と云ふは 此の侯家此の寺の御同
が御上よりあるは此の御家

寛永十九年九月廿三日

大工

板倉園防亭様